

おつとめ

(ふぎん)

本堂にて諷経をします。読経の作法とマナーをメモしています

開始の合図 山門の大梵鐘を、ゆっくり等間隔で9度撞きます。最初の7打目までは中音で撞き、8打目は小さく、9打目は間を置かずに大きく撞く。

諷経

- ① 導師が叉手して進前（進前叉手）し、合掌低頭して2回焼香します。
- ② 導師が一步下がって合掌低頭したときに引磬を1回鳴らします。
導師が合掌低頭して座に戻ってきた（帰位合掌）ら、引磬を再度鳴らします。
- ③ 導師より「ご本尊様に合掌します」の声がけで、参禅者も合掌します。引磬を転置します。
*転置とは、連続して鳴らすこと
- ④ 導師の合掌低頭にあわせ引磬1打目が鳴り、参禅者も合掌低頭します。導師はその後合掌低頭してさらに2挙するが、引磬2打目で参禅者も合掌低頭します。
3挙目は導師の低頭にあわせ引磬3打目に続き4打目が鳴り、参禅者も合掌低頭します。
- ⑤ 導師が再度進前（進前叉手）し、合掌低頭して2回焼香します。 *ここから般若心経のおつとめ
- ⑥ 焚香を終り導師が戻り合掌低頭の時、鑿子(けいす)を1回鳴らします。
- ⑦ 導師より「般若心経を読誦致します」の声がかかります。
導師の1挙目で鑿子2声目を鳴らします。
- ⑧ 導師の2挙目で鑿子3声目、3挙目で鑿子を止め（ガツ）、その後木魚を鳴らします。
- ⑨ 導師が「摩訶般若波羅蜜多心経」と唱えたあと、鑿子を鳴らします。
- ⑩ 般若心経文（青地部分から）を導師と一緒に諷経します。 裏面の般若心経文を参照。
- ⑪ 般若心経が終わると回向します。途中、参禅者は合掌低頭します。 裏面の回向文を参照。
- ⑫ 回向が終わると、略三宝を唱えます。 裏面の略三宝文を参照。
略三宝の途中より導師が進前し、2回焼香をします（①）
- 導師が一步下がって合掌低頭したときに引磬を1回鳴らします。
- 導師座に合掌して戻ったら（帰位合掌）引磬を再度鳴らします。（②）
- 導師より「ご本尊様に合掌します」の声がけで、参禅者も合掌し、引磬を転置します。（③）
- 導師の3挙にあわせ、引磬のあと 参禅者も合掌低頭します。（④）

お経の文言

般若心経

摩訶般若波羅蜜多心経

かんじーざいぼーさつ ぎょーじんはんにやーはーらーみーたーじー しょーけんごー おんかいくーどーいっさいくーやく しゃーりーしー
 観自在菩薩 行深般若波羅蜜多時 照見五 縊皆空度一切苦厄 舍利子

しきふーいーくー くーふーいーしき しきそくぜーくー くーそくぜーしき じゅーそーぎょーしきやくぶーによーぜー しゃーりーしー
 色不異空 空不異色 色即是空 空即是色 受想行識亦復如是 舍利子

ぜーしょーほーくーそー ふーしょーふーめつ ふーくーふーじょー ふーぞーふーげん ぜーこーくうーちゅー むーしき むーじゅーそーぎょーしき
 是諸法空相 不生不滅 不垢不淨 不增不減 是故空中 無色 無受想行識

むーげんにーびーぜーしんいー むーしきしょーこーみーしょくほー むーげんかい ないしーむーいーしきかい むーむーみよーやく むーむーみよーじん
 無眼耳鼻舌身意 無色声香味触法 無眼界 乃至無意識界 無無明亦 無無明尽

ないしーむーろーしー やくむーろーしーじん むーくーしゅーめつどー むーちーやくむーとく いーむーしょーとくこー ぼーだいさーつーたー
 乃至無老死 亦無老死尽 無苦集滅道 無智亦無得 以無所得故 菩提薩埵

えーはんにやーはーらーみーたー こー しーむーけーげー むーけーげーこー むーうーくーふー おんりーいっさいてんどーむーそー
 依般若波羅蜜多故 心無罣礙 無罣礙故 無有恐怖 遠離一切顛倒夢想

くーきょーねーはん さんぜーしょーぶつ えーはんにやーはーらーみーたー こー とくあーのくたーらーさんみやくさんぼーだい
 究竟涅槃 三世諸仏 依般若波羅蜜多故 得阿耨多羅三藐三菩提

こーちーはんにやーはーらーみーたー ゼーだいじんしゅー ゼーだいみよーしゅー ぜーむーじょーしゅー ぜーむーとーどーしゅー のうじょーいっさいくー
 故知般若波羅蜜多 是大神呪 是大明呪 是無上呪 是無等等呪 能除一切苦

しんじつふーこー こーせつはんにやーはーらーみーたーしゅー そくせつしゅーわっ ぎやーてー 獬諦 獬諦 はーらーぎやーてー
 真實不虛 故說般若波羅蜜多呪 即說呪曰 波羅羯諦

はらそーぎやーてい ぼーじーそわか 菩提薩婆訶 はんにやーしんぎょー はーらーぎやーてー
 波羅僧羯諦 舩薩婆訶 般若心経

*一文字ごとに心をこめて  を叩きます

回向文

じょうらい ま か はんにや は ら みつたしんぎょう ふ じゅ くどく
 上來摩訶般若波羅蜜多心経を諷誦する功德は  (参禪者は合掌低頭)

だいおんきょうしゅほんししゃかむにぶつ こうそじょうようだいし たいそじょうさいだいし くよう
 大恩教主本師釋迦牟尼仏、高祖承陽大師、太祖常済大師に供養し奉り  (低頭終了)

むじょうぶつかほだい しょうごん し おんすべ ほう さんぬひと たす
 無上仏果菩提を莊嚴す。伏して願くは四恩總て報じ、三有齊しく資け

ほっかい うじょう しゅ ち まどか
 法界の有情と同じく種智を円にせんことを  *太字部分は合唱低頭してとなえます

(冀う処は、本日参詣の善男善女に各々家門繁栄、子孫長久、災障消除、諸縁吉祥ならんことを) *オプション

略三宝

じーほーさんしーいーしーふー
 十方三世一切仏、  しーそんぶーさーもーこーさー もーこーほーじゅー ほーろーみー ほーろーみー
 諸尊菩薩摩訶薩、 摩訶般若  波羅蜜 